

2020 年度実施概要

学校名

竹富町立白浜小学校

採択活動名

海洋教育～ふるさとの海、山、川を知り、今できることを考えよう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海洋教育オリエンテーション	3～6年	総合
2. 海神祭～白浜の伝統文化を肌で感じて～	全学年	総合・生活
3. 第一回ビーチクリーン	全学年	総合・生活
4. 山の体験学習	PTA 行事	
5. 第二回ビーチクリーン	全学年	総合・生活
6. 学習発表会（海洋教育実践発表）	3～6年	文化的行事
7. 海洋教育～黒島小との交流・黒島研究所訪問を通して、竹富町の更なる魅力と課題の発見～	全学年	総合・生活

取り組みの概要

1 海洋教育オリエンテーション

- ・ESD や SDG s から西表、海のもつ価値についてウェビングで意見を出し合い、客観的な視点から海を捉えなおした。その後、海の現状（海洋プラスチックやマイクロプラスチックなどの環境問題）について確認し、「私たちにできることは何か？」を考え合い、意見交流を行った。
- ・一年間を通して海洋教育を学ぶことや、見通しを持たせるために大まかな学習計画を立てた。

2 海神祭～白浜の伝統文化を肌で感じて～

- ・海神祭に向けて、総合学習にて海神祭について書籍やネットなどを活用して調べ学習。その中で出た疑問や分からないことなどを、白浜地域の海人へインタビューなどをして海神祭についての理解を深めた。そのうえで、海神祭に臨んだ。※新型コロナウイルスの影響で規模縮小して実施。
- ・御願ハーリーや東西ハーリーのみを行ったが、その目的などを学習して臨んだのでより一層応援の声や気持ちの入った海神祭となった。

3 第一回ビーチクリーン（7月実施）

- ・西表島西部の中野海岸にてビーチクリーンを実施。本校では初めてとなるビーチクリーン活動なので、中には初めての児童も多数いた。風向きの関係で比較的ゴミの量が少ないといわれる夏場の実施ではあったが、ゴミの量の多さに職員、児童共に驚いた様子だった。その後ペットボトルの国別分別を行い、どの国の排出ゴミが多いのかを調べた。子供たちの予想通り中国からの漂着ゴミが多かったが、日本のペットボトル確認されたことから、日本人でもゴミを捨てている人がいることも分かった。
- ・西表エコツーリズム協会の方から、西表のゴミの現状や、ごみを減らすためにできる取り組みの

事例などを紹介していただいた。この講話をと通して今一度「僕たちにできることは何か？」について考えようとする児童の姿を見る事ができた。

4 山の体験学習～PTA 主催～

- ・地域の豊かな自然に触れることや、自然・生き物への畏敬の念を育てることを目的に毎年 PTA 主催で実施している伝統行事。毎年行き先を PTA と学校で相談して決定し、魅力ある体験活動になっている。

- ・今年度は、仲良川を白浜伝統のハーリー船にのって上流まで行き、仲良の滝（ナーラの滝）で昼食を食べ、泳いだりして遊んだ。白浜に長く住んでいる保護者や子供たちの中にも「初めて仲良の滝まで来た」という意見が多くあり、非常に有意義な体験となった。特に白浜地域方の協力を得て、山に自生している植物の名前や特徴などを教えていただきながら、山登りを行ったので知見を深めるいい機会ともなった。

5 第二回ビーチクリーン（11月実施）

- ・第一回ビーチクリーンを実施した場所と同じ場所で実施した。西表島は10月以降から風向きが変わり、冬場の方が漂着ゴミを増えることを学んでいたため、夏場と冬場の比較のために同じ場所でビーチクリーンを実施した。その結果予想以上のゴミの量を実感し、非常に驚く児童が多かった。夏場に実施した時と比較して3倍以上のゴミがあり、漂着ゴミの量の変化や、西表や沖縄だけでなく、世界中の海がゴミで汚されている現状を知ることができた。

5 学習発表会（海洋教育実践発表）

- ・5, 6 先生「海神祭～白浜の昔、今、未来～」

海洋教育を通して、西表に住む人々が海とどのように関わってきたのかという視点から、5・6年生が海神祭について、地域の漁師や公民館長などへのインタビュー活動を通して、新たに見えてきたこと、子ども達にも将来引き継いでほしいという地域の人たちからの熱いメッセージを受け、感じた子ども達の思いを発表することができた。

「海神祭を違った視点から見る事ができ、学びになった。」という来場者からの感想もあり、子ども達の学びを地域に還元することができた。

- ・3、4年生「ビーチクリーン活動 SDGs 17の目標」

たくさんの恵みをもたらしている海が今現在とても苦しい状況を、ビーチクリーン活動を通して学んだ子ども達が、僕たちにできることについて今一度考え、まとめたことを発表することができた。子供たちの発表が地域や保護者への啓もう活動にもつながり、地域を挙げてビーチクリーン活動を実施したいという声も頂き、次年度は、学校と保護者に地域も加え、白浜地域総出でビーチクリーンをする方向で検討している。

6 海洋教育～黒島小との交流・黒島研究所訪問を通して、竹富町の更なる魅力と課題の発見～

- ・海洋教育を通して学んだこと、両校の交流も兼ねて、発表し合い意見の交流をすることを目的に実施。

海洋教育交流学习で、黒島小の海洋教育実践「ウミガメについて」の発表では、ウミガメの性別が遺伝子ではなく気温によって決まり、地球温暖化がさらに進んでしまうと、オスとメス

との個体数のバランスがくずれてしまうことなどを発表していた。本校児童からも「白浜ではウミガメが増えすぎており、漁師が困っているが、なぜ黒島では放流をしているのか？」などの質問も飛び交い、お互いの発表に対して質問や感想を交流させることができた。

- 黒島研究所（ウミガメ研究所）では、展示物や飼育されている様々な種類の海洋生物の生態についても知る機会となり、改めて海の素晴らしさを実感するとともに、海洋生物が生息しにくい現状があることを肌で感じる事ができた。また、ウミガメの放流体験では、孵化させたウミガメを放流するのではなく、漁師や保護されたウミガメをある程度の大きさになるまで育てて放流することで、研究所がウミガメを増やそうとするための施設ではなく、研究のための施設だということも知ることができた。

活動中の写真→別フォルダにて提出いたします。